

Health

ADVICE

荒巻泌尿器科診療部長の

くらで病院スタッフ
からの健康
アドバイスです

調子はいかが？

くらで病院 ☎ (42) 1231



健診で前立腺がんの疑いがあると言われました。どうすればよいでしょうか？（70歳男性）

健診で前立腺がんの疑い血液検査でのPSA高値による2次検査がほとんどです。

PSA（ピーエスエー）は、男性に特有な器官である「前立腺」という精液を作る働きのある器官の細胞から分泌されます。がんや炎症により前立腺組織が壊れると、PSAが血液中に漏れ出し増加します。前立腺がんは男性のがんとして近年は増加しています。特に60歳以上から発生率が高まってきて70歳代に発症のピークとなる高齢者のがんであるため、会社検診や人間ドック、かかりつけ医でも測定することが多くなっています。

PSAの基準値は一般的には0〜4ng/mLとされており、4〜10ng/mLがいわゆる「グレーゾーン」と言われ、25〜40%の割合で前立腺がんが発見されます。

PSAが高い場合に考えられる疾患は①前立腺がん、②前立腺肥大症、③前立腺炎、などがあります。また射精や長時間の車の運転のような前立腺への機械的な刺激でも軽度上昇する場合があります。

前立腺がんの疑いに対して泌尿器科での検査は

問診（頻尿や排尿困難などの確認）と検尿（血尿などの有無で異常がないか調べます。早期の前立腺がんの場合は、多くの場合は自覚症状がありません。

直腸診（肛門から指を入れて、直腸の壁越しに前立腺を触診する方法）や、エコー（超音波）検査で、前立腺の大きさや硬結などの異常がないか調べます。近年は前立腺のMRI画像検査などが進歩しており、診断・生検時の局在の目安に役立つようになっていきます。

正確な診断と予後の予測を行い、治療方法を決定するには、前立腺組織を採取して悪性度などを調べる生検は必要不可欠なものです。

当院では泌尿器科で最も一般的な方法となっている、経直腸エコーガイド針生検（エコー装置によるリアルタイムに狙いを定めながらの針生検）を、安全のため1、2泊の入院にて行っています。

早期発見・早期治療
せつかく受けた検診の結果を放置せず
泌尿器科に相談を

前立腺がんの治療は、その病期（ステージ）が広がりにくく、①手術、②放射線治療、③ホルモン治療の大きな3つの柱があります。

高齢者のがんであることから年齢・体力の状況・生活の質（QOL）のバランスを考慮して治療方法を選択することになります。

早期発見の場合、がんの悪性度などによっては、①手術治療や②放射線治療で根治治療を望める場合もあります。PSA異常値の場合は、まずは泌尿器科にご相談ください。



【アドバイザー】

PSA健診でのPSA高値は早期発見・治療のチャンスです。かかりつけ医に相談し、泌尿器科を受診することをお勧めします。

荒巻和伸・あらまきかずのぶ・平成3年産業医科大学医学部卒業。産業医科大学、原三信病院、三菱化学黒崎付属病院、JCHO徳山中央病院などに勤務し、令和2年2月から、くらで病院泌尿器科に常勤として勤務。泌尿器科診療部長。日本泌尿器科学会専門医。日本泌尿器科学会、日本透視医学会所属。